

## 代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。秋を一気に乗り越え、冬の寒さを感じられるこの季節、皆様はお変わりございませんでしょうか。

今回は、『SMBC日本シリーズ2023』で1985年以来、38年ぶり2度目の日本一に輝いた阪神タイガーズに注目しました。

11月5日、京セラドーム大阪（大阪市）で行われた第7戦、昨年の覇者オリックスバファローズを7-1で破り、見事日本一に輝き、3年連続で日本シリーズに進出したオリックスの連覇を阻止する大活躍を見せました。また、最高殊勲選手（MVP）には近本光司（28）選手が選出されました。

今季、18年ぶりにリーグ優勝を果たした阪神は、

日本シリーズに進出。シリーズは南海ホークス（現・福岡ソフトバンクホークス）が阪神を破った1964年以来、59年ぶりに関西に本拠地を置く球団同士の顔合わせになった。阪神は第5戦で先に3勝を挙げて優勝まであと1勝としたが、第6戦で敗れ、第7戦で勝った方が日本一という激闘となっていました。この日、阪神は、四回にノイジーが3ランを放って先制すると、その後も追加点を挙げてオリックスを突き放した。試合後の阪神・岡田監督は、『オリックスは強くて、どっちに転ぶか分からない展開だった。悔いのない試合をしよう選手みんなが役割を果たして頑張ってくれたからアレを成し遂げる事が出来た』と話しました。

この素晴らしい快挙に脱帽の思いであります。本当にスポーツからは、私自身、元気を貰っていると痛感する今日この頃です。

皆様も毎日を元気に送られる事を切に願っております。

寒暖差が激しい毎日ですが、皆様くれぐれもご自愛ください。

## サンライズの物語

魂が呼びかけることもある——  
人とつながりについて考える物語

その方は単身で暮らしておられ今年夏急に両下肢に力が入らなくなり関わらせて頂いた方でした。

10月に入り訪問診療より血液検査の結果が良くないのでと連絡があり病院で精査を勧められましたが、ご本人が断固拒否されたのです。先生方の推測によるとすい臓がんの疑いがあるとの事。ベットから立ち上がる事も困難になったのです。

入院も勧めましたが自宅に居ると拒否されました。身寄りもなく毎日訪問するヘルパーさんと訪問入浴の方々と会話をするのが楽しいと話されていました。

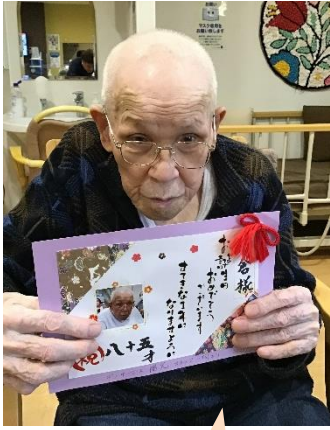
訪問診療からは急変する可能性が高いと診断されていました。そんな時、定期で訪問するヘルパーが休みを出し、本人が大好きだったヘルパーが訪問すると永遠の眠りについていました。訪問診療の医師と私も駆け付けた時、まだ体には温もりがありました。「お疲れ様でしたね。ゆっくり眠ってね」と声を掛け会社に戻ると担当包括から連絡があり、本日朝友人の方から包括に連絡があり「これから会いに行きたい」との伝言を受けたとの事。朝永眠された事を伝えただけでした。

この仕事に関わってから不思議な現象に何度か巡りあう事があります。スピリチュアルな現象・・・きっと友人や大好きだったヘルパーを呼び寄せたのでしょう。

人の魂とは不思議です。目に見えなくても、聞こえなくても、その人達に魂が呼びかけることがあるのだと・・・

自分が困った時によく母や主人の夢を見ます。姿形は無くなっても魂が心の中に呼び掛けるのだと思います。この世を旅立つのは別れではありません。いつかどこかで再び出会う為の門出だと信じています。

# サンライズのデイサービス陽光だより



## 12月カレンダー製作

各自、折り紙で手袋を作り、画用紙に貼り付けてカレンダー工作进行了。



## 誕生日

誕生日カードを差し上げおやつでパンケーキを出しました。

皆さん「ありがとう」「ケーキ美味しい」と言って喜んで召し上がられていました。



## NEWS 今月のニュース

### 絵画鑑賞 認知症の人にも 介護家族ら美術館で体験会 小樽

絵画を見ながら対話して認知症の進行を和らげる「ART R I P (アートリップ)」の鑑賞体験が、似鳥美術館(小樽市色内1)で行われた。

アートリップは、芸術を鑑賞しながら会話を重ねることで認知症患者に知的刺激を与え、症状の進行を遅らせる取り組み。一般社団法人「アーツアライブ」(東京)の林容子代表理事が、米国で手法を学び、主に関東地方の美術館や高齢者施設で活動を行い、国内での普及を図っている。

15日の取り組みは同法人の主催。認知症患者の参加はなかったが、日頃介護にあたる家族や活動に関心を持つ医療関係者ら20人が参加。講師の林さんが「絵を見て思ったことを自由に言って」と呼びかけると「女性の前にある手紙は誰から送られたのだろう」「机の上の飲み物はワインだろうか、コーヒーだろうか」など、発言が相次いだ。この日は3枚の絵で1枚につき3分ずつ意見や疑問を言い合った。

林さんは鑑賞会後の講演で「芸術を楽しむことは人間の尊厳の一つ」と強調。アートリップに参加した認知症患者の家族からの「笑顔が増えた」「ふたたび絵を描くようになった」などの声も紹介し、生活を楽し

むことへの希望を捨てないでと呼びかけた。

認知症の母がいる小樽市の嶋田理志さん(64)は「今後も続けてほしい。今度は母も連れてきたい」と話した。(向井智啓)



絵を楽しみながら意見を出し合う参加者たちと林容子代表理事(中央)

<北海道新聞 23/11/24(金)>

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>